



# さとのかぜ

NO. 156

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

5月号 2008年5月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

## 小雨もなんのその、田植えに挑戦



5月の別名は皐月。早苗月がその由来といえます。センターでは、5月4日(日)に恒例の田植え行事が行われました。五月晴れならぬ霧雨のもと、参加者は素足で田んぼに入り、普段味わうことの少ない泥の感触を楽しみながら、ていねいに早苗の植付けを終えました。秋の収穫が楽しみです。

ところで、5月をあらわす英語は May(メイ)。その語源は、古代ローマの豊穡の女神マイアに由来するとか。洋の東西を問わず、5月は“ものみな成長する季節”に因む命名となっているのですね。



★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 4月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### 《里山ハイキング》

♥『里山ハイキング』 20日(日)

平成20年度最初の行事『里山ハイキング』は、あいにくの小雨もよものなかで行われました。コースは、狩野正信顕彰碑～大野城跡～光福寺～荒木根ダム。車での移動を除くと約7キロ。参加者は県内外から男性10名、女性12名の計22名。今回は6歳と5歳のかわいい兄妹が加わり、参加者の平均年齢をグ～ンと引き下げてくれました。講師は野口昭造先生が植物、池田文隆先生が野鳥、嶺島英寿さんが歴史を担当し、丁寧な解説で参加者を楽しませてくれました。

#### ★いすみ市の文化と歴史を学ぶ

センターを出発した一行が最初に向かったのは、戦国時代に旧夷隅町と勝浦市を支配していた上総狩野氏の居城、大野城があった中川地区です。大野城は



左・狩野正信顕彰碑 右・空堀跡の説明に聞き入る参加者。大野城跡にて

東に夷隅川と大野川、西と南には谷津、そして南西部は丘陵が続く天然の要害に築かれ、空堀や郭の跡がいまも残っています。日本画界に名だたる狩野派の始祖、狩野正信は、上総狩野氏の出といわれ、顕彰碑が大野城跡麓に建てられています。大野城跡に至る道は杉の古木が茂り、その足元にはウラシマソウやハウチャクソウの可憐な花が春を告げるように咲いていました。



光福寺の祖師堂内。欄間の鶴四態図や格子天井は圧巻

続いて一行が訪れたのが、栄久山光福寺です。狩野氏ゆかりの日調上人が文明12年(1280)に、日契上人開祖の瑞龍庵をこの地に移したと言われる日蓮宗のお寺です。現在の祖師堂は享和2年(1802)の落成で、市指定の文化財となっています。光福寺では、かの初代“波の伊八”の手になる彫刻が堪能できます。祖師堂の向拝には“龍”が躍り、籠彫りの“波に鯉”が跳ね、蛙股には1対の“波に兎”が跳ぶ…。今回は祖師

堂内部も拝見でき、伊八の“鶴四態の図”を刻んだ欄間や、華麗な彩色の跡が残る格子天井等々

その豪華さに皆圧倒されました。カメラをかまえる人、ただただ「すごいわねえ・・・」を繰り返す人、一番多かったのは「もう一度訪ねたい」という声でした。

### ★荒木根ダム周辺の植物を観察

光福寺で初代伊八の彫刻を満喫した後は、荒木根ダムに移動し、「ふるさと憩いの家」で昼食タイム。熱いお茶とお弁当でほっと一息。小雨にぬれて冷えた身体が温まったところで、こんどは荒木根ダムと周辺の植物観察とバードウォッチングに出発です。夷隅川は渇水期になると塩分を含む地下水が噴出し塩分濃度が上がるため、灌漑用水としている地域の農作物に大きな被害が出ていました。荒木根ダムは、この塩分濃度を下げる目的で造られたのだとか。ちなみにここ荒木根ダムはバス釣り愛好家が集う場所としても有名で、この日も県外ナンバーの車が数台堤防脇に止まり、釣り糸を垂れかけていました。ダム周辺ではイタドリやノブキ、ゴヨウアケビ、ヒメウツギ、ウワミズザクラ、クロモジなどなど、多くの植物を観察し、予定時間をオーバーするほど楽しみました。

最後に聞いた参加者の感想は、「ただ歩くだけかと思っていたのに、いろいろ教えてもらえて勉強になった」、「雑草は無かった。皆名前があることを知った」、「学生気分を久々に味わえて、楽しかった」とか、「結婚40年にして、初めて家内とハイキングができました。ありがとうございます」というもの、さらには、昨年四月の里山ハイキングに参加し、この土地が気に入って「六月に引っ越してきちゃいました」という方。最後まで歩けるかな？と心配された可愛い兄妹も、元気に完歩。「虫がいっぱい取れて楽しかった」とはにかんだ笑顔で答えてくれました。「秋に同じコースでもういちど里山ハイキングをやりたい」とい声もあり、小雨に加え、冬に逆戻りしたような寒い日でしたが「楽しかった！」という声ばかりでした。 (大東 悠子)



可憐なウワミズザクラの花



ヒメツチハンミョウ  
(ツチハンミョウ科)

今月の

## 見い~つけた!

No.1

ザリガニつりをしていた村井岳くんが、センター近くで見つけました。体の大きさは約2cm、メタリックブルーのきれいな昆虫です。顔はアリのように、背中の中は途中までしか生えていません。体には毒があり、さわるとかぶれます。もし見つけたら、素手でさわらないで観察してみてくださいね。(堺 勇人)

**あなたの見つけた生きもの、教えてください!**

当センターに来られて、気になる生きものを見つけたら、ぜひ教えてくださいネ!

## 和泉-日在浦だより 初夏の訪れ (5月1日)



コウボウムギの雌株(和泉浦4/29)

コウボウムギは雄株に続いて雌株が4月下旬から穂をつけています。またハマニガナが可憐な黄色の花をつけ、ハマエンドウは蔓にすみれ色の花と萌黄色の莢をつけています。ハマヒルガオの花が咲く頃「いすみなぎさのウォーキング (5月18日)」が開催されます。

### [クロツラヘラサギの飛来]

世界で1700羽しか生息していないクロツラヘラサギ(コウノトリ目トキ科、学名 *Platalea minor*) の若鳥がいすみの汽水域に迷鳥として飛来したと鳥類研究者から聞き、日在瀉周辺の大型サギのコロニーでダイサギやカルガモと一緒にいるのを4月中旬に観察できました。朝鮮半島北西部で繁殖し、わが国では北九州に毎年100羽規模で飛来しているものです。ヘラのような嘴を左右に振って摂餌する様子がユーモラスな鳥です。夷隅川河口近くの田植えが終わった田んぼで見たとの報告もありました。



クロツラヘラサギの摂餌(三軒屋4/13)



アカウミガメの漂着死骸(北岸4/9) ています。

### [アカウミガメのストランディング]

例年7月-9月にしか観察されてないウミガメの死骸の漂着が4月上旬にありました。曲甲長71.5cmのメスのアカウミガメで亜成体と思われます。NOAA気象衛星観測データによれば当日沿岸域の海水温度は15℃で、生息海水温度の下限域に近いものでした。初夏の季節を迎え、今年も5月下旬以降9月下旬までアカウミガメの上陸・産卵を迎えますが、元気な繁殖活動が期待され

[森谷 淵(もりや ふかし)]

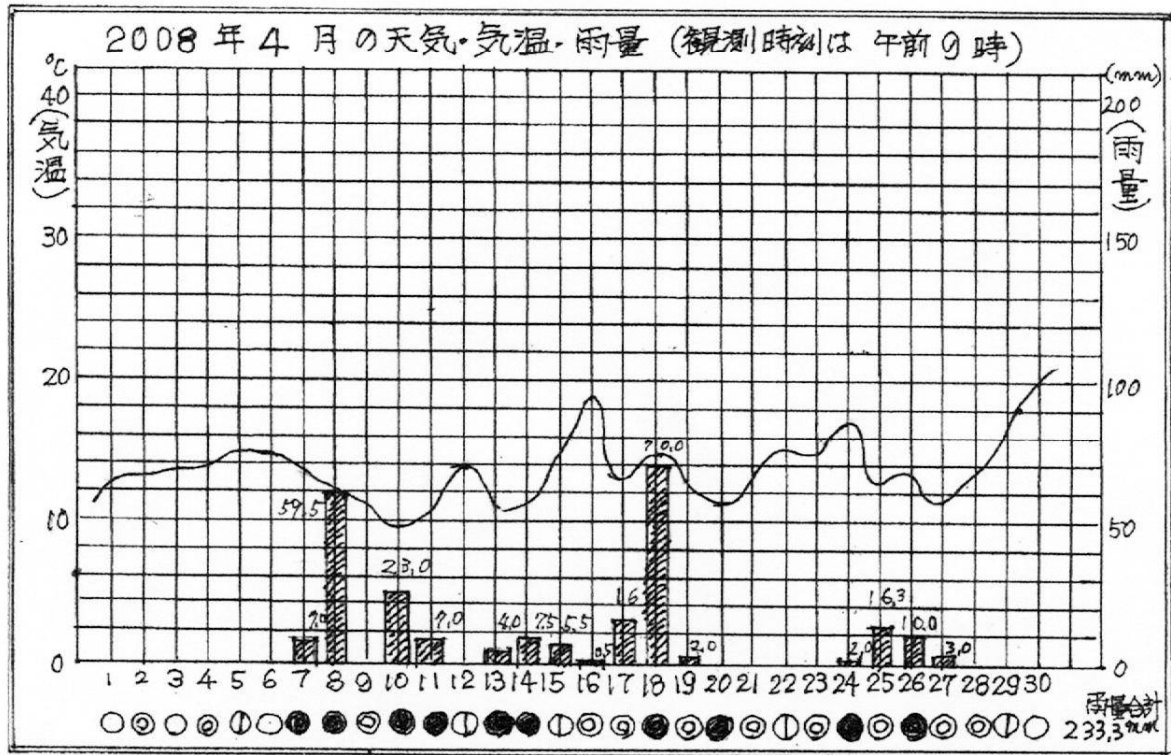
# ◎今、いすみでは???

4月30日現在で、いすみ環境と文化のさとセンター周辺の水田は、ほとんど田植えが終わり、小さな苗が水田の水の中に行儀よくゆらんでいます。しかし、ところどころに、まだ苗の植えられていない水田や、いまだに「代かき(イネの苗を植えることができるように、水田に水を入れて、土と水をよくかき混ぜて、どろどろになった田の土を平らに沈めること)」を行っていない水田も見られます。センターは5月4日が「田植え」です。

農家の方たちは、田植えが終わると次は、「さし苗」と言って、植えたはずのイネの苗が、自然に浮いてしまったり、風や何かのために抜けて流れてしまったりした株のところに、再度植えること。「補植」とも言っていますが、1週間くらいの間に行います。

そのあとは、水田の管理で、水の不足している時は水を入れる手配をしたり、多い時は水を減らしたり、苗の補植を兼ねて、毎日各水田を見廻ります。この仕事を、当番を決めて、その当番の人にやってもらっている地区もあります。また、水を切って、水田の土にひびが入るほど、乾かすこともします。もちろん肥料も与え、よりおいしい米を少しでも多く収穫できるように、みな研究しながら米作りに励んでいくのです。

センター地区を歩きますと、色々な野草が伸びてきていて、すでに花をつけている野草も多く見られます。シジミチョウやキチョウなども飛んでいます。温度も上がってきましたので、ザリガニの釣れ始めるのではないかと思います。



(芝崎昌彦)

